

檜の会

平成二十二年
春・夏号
第三十三号

NPO法人「檜の会」事務局
京・東山区昆沙門町三三
TEL/FAX 〇七五五二五〇八〇三

理事長就任に当って

理事長 河田 貞

安田理事長から、是非お会いしたいという電話を頂戴したのは、年度末の頃だったと記憶している。新年度の企画に関わることかと早合点して参上したところ、五月の理事会で推挙されたら理事長の職を継承して欲しいとの御希望であった。私にとってはまさに青天の霹靂、近年補聴器の使用を余儀なくされており、躊躇していたものの、安田理事長の熱意にひかれ、短期間ならばとついお引受けすることになったのがこの一件の顛末である。

檜の会をこれまで永年にわたり手塩にかけて育み、会員一同が気楽に参加できる素晴らしい会にされたのは安田理事長の人徳の賜物にほかならないが、ここでは十分に休息され、積年のストレスをいささかでも解消していただけたらと念ずるのみである。

檜の会は、日本の伝統文化・芸術の振興に寄与することを標榜した数少ないNPOの一つであるが、その活動の基盤が会員の寄附行為にあることは申すまでもない。最近その寄付に対する税制の見直しが決まり、市民社会を充実させるようなこの種の活動がスムーズに行われる措置も漸く講ぜられつつある。しかし税制上の優遇策を享受できるのは、四万を数えるNPO法人のうちでも国が「公益性」があると認めた一二七の認定NPOにすぎない。当会の更なる発展を促すためには、今後着実に実績を積み重ねて、いずれは認定NPOの座をクリヤー、多方面からの協賛を得られるような京都の地にふさわしい基礎づくりが不可欠であろう。会員の皆様の御力添えをお願いしたい。

皆様のご意見、ご投稿など
お待ちしております。

ご挨拶

名誉顧問 安田 紀美子

祇園囃子の音が聞えますと、京都は夏を迎えます。皆様にはお健やかにお越しの事と、心よりお慶び申し上げます。NPO法人檜の会も八年目を迎える事となりました。

これも偏に、皆様方の文化を愛されるお心が大きな支えとなり、又会員の皆様のご活躍の賜物で御座います。

私が昨年夏より体調を崩し、大変ご心配をおかけしました事を心よりお詫び申し上げます。誠に残念では御座いますが平成二十二年度の総会において、理事長を辞職させて頂く事となりました。本当に永い間有難う御座いました。

皆様との懐かしく、楽しかった思い出は、私の人生に大きな支えとなる事でございましょう。私は、一舞踊家としまして、今後も皆様と親しくお付き合いさせて頂きたいと存じます。



この度、新理事長にご就任いただきました河田先生は、日本の文化に於いては、その道の権威でいらっしゃると思います。皆様方には、NPO法人檜の会が今後、更なる発展を致します様、ご支援、ご協力の程を、心よりお願い申し上げます。

平成二十二年六月吉日

(花柳双喜美)

企画・編集／檜の会会報編集室
発行／季刊(一・四・七・十月)
<http://village.infoweb.ne.jp/hinoki/>

平成二十二年総会の報告

荒木 勤

檜の会の総会が五月二十九日(土)京都ロイヤルホテル会議室で開催されました。出席会員数は五十三名(内表決委任者は三十名、会員総数七十名)で、脇谷理事長代行の挨拶に始まり、議第一号から議第八号までの審議を無事終了しました。引続き、安田理事長並びに河田新理事長のご挨拶がありました。

当日の催事として、「京都よし笛アンサンブル・らくとう」の奥村好信代表以下四名の皆さんによるよし笛演奏会が開かれました。曲目は「ふるさと」以下十曲で、よし笛の素朴で優しい音色に参加者一同魅了されました。

次いで、同ホテルの料理を楽しみながら和やかに懇談会が開催されました。

(常務理事)

理事長代行挨拶

脇谷 英勝

昨年総会を終えて、新たな一年を出発しようとした矢先、突然理事長が体調を崩され、加療安静という報に接し、まさに青天の霹靂でした。直ちに協議会・理事会を重ね、その結果六月末日から十二月末日まで、定款に従って副理事長の私が、代行を務めることになりました。当初は、二、三ヶ月位で理事長が復帰されるものと理事役員一同は思い、念じていましたが、病状が回復好転せず、九月の日韓交流の最重要催事も中止のやむなきに至りました。十一月の「伝統文化の精華」展や吉野・宮瀧への文学・歴史散策その他の催事を事なく終えたものの、十二月になりまして理事長の容態は芳しくなく、理事会でさらに一月から五月末の総会まで代行を続投することが決定されました。

一月末の新年会では、理事長も久しぶりにお顔を出され、恒例の祝舞を舞ってくださったのですが、その後の病状も思わしくなく、二月には公開講座、三月には「北野をどり」と新たな催事を加え、活況を呈したものの、四月には遂に理事長職辞退願いがだされました。協議会・理事会で何度も協議した結果、病気が理由では、慰留の手だてもなく、残念乍ら辞職願を受理する事になりました。そして健康の回復を祈念しますとともに、永年に亘る御労苦・功績に対して「名誉顧問」に御就任いただくことになりました。今後とも当会には無くてはならないお方でございます。NPO法人檜の会がより充実発展するためにも、種々のアドバ

イスなど賜り乍ら、見守って頂きたく存じます。青天の霹靂の念いの中で、当会の運営を委ねられました私が、諸々の問題を抱えながらも、無事に本日の総会を迎えることが出来たのも、理事役員をはじめ会員皆様のご協力・御支援の御蔭だと感謝の念に耐えませぬ。まことに有難うございました。

(副理事長)

「お煎茶の会」の報告

田村 類

平成二十二年五月十五日(土)に、NPO法人「檜の会」の伝統文化・芸術国際交流事業「お煎茶の会」を、東山区の安井金比羅宮で開催しましたので報告します。本事業は、宝山流社中によるご指導の下、主として京都の大学に在籍の留学生や外国人研究者に、煎茶道を体験してもらうことを趣旨として企画されました。

当日は、日差しの柔らかな絶好の茶会日和となり、参加者は三十六名と盛会でした。このうち五名の留学生(タイ二名・中国二名・香港・メキシコ)と五名の外国人研究者(インド二名・中国二名・ロシア)が初めての煎茶道を体験し、紅茶や中国茶とは異なる、甘露な玉露の味わいに思わず笑顔がこぼれておりました。当日は、葵祭の巡行もありましたので、彼らにとつて、思い出深い京都での一日になったことと思います。

翌日、留学生の一人から、日本語と英語でお礼のメールが届きましたので、日本語のメールを原文のまま掲載します。

「昨日の朝のGreen Tea Ceremonyに参加したラウです。この活動は私にとつていい経験でした。檜の会の皆さんとお茶をやった女性もとても親切だし、お茶も、お菓子もおいしいし、和室も綺麗でした。その活動の後、檜の会がお勧めした「葵祭」を見に行きました。日本の伝統的な服を着ている人がたくさんいました。凄かったです。Green Tea Ceremonyに参加させていだいて、どうもありがとうございます。ジョアンナ・ラウ(香港)」

当日、お世話いただきました宝山流社中の皆さまに厚く御礼申し上げます。

(理事)



古の奈良の都に想いを馳せて 大遣唐使展・平城宮跡見学会へ 遠藤 歌子

去る六月九日(水)、檜の会主催による大遣唐使展・平城宮跡の見学会が催行されました。午前十時、奈良国立博物館前に総勢三十三名が集合。新理事長の河田先生の先導で博物館の会議室に入り、一時間ほど遣唐使の歴史や今回の展示の見所を解説いただきました。もっと伺いたいと未練は残しつつも、時間に追われて展示会場へ・・・行ってみたとこが、びっくり仰天! 平日だから空いているはず、との甘い期待は見事に裏切られ、修学旅行生と団体客で会場はごった返しておりました。人垣に阻まれて近づけないと嘆きつつ、それでも河田先生のお話に出たものだけは見逃すまい、と新館・本館両方を使つての意欲的な展示を一時間半で駆け抜けました。

次は、新装なった興福寺の宝物館へ。こちらも大混雑ではありましたが、展示の仕方に工夫が凝らされ、阿修羅像を始めとする立派な、そして愛らしい仏様の数々を、ガラス越しではなく直接拝むことができたのには感動しました。

各自遅めの昼食後、再び集合して近鉄電車以西大寺、駅からはシャトルバスで平城宮跡へ。ここでも河田先生に見所をお教えいただき、後は自由解散となりました。話には聞いておりましたが、平城宮跡のまあ広いこと・・・お庭が美しいという東院に行ってみたのですが、結局それだけで終わってしまいました。それにして、四時で閉場してしまうというのは、何とも商売が無いというか、もったいない話です。

以上、神戸の自宅を出た時には梅雨の走りの雨模様だったのですが、奈良に着くと一転、夏の日差しが照りつけ、雨傘を日傘代わりに差さずにはおられないほどの好天の下、古都奈良を一日満喫いたしました。お世話いただいた河田先生を始め、役員の皆様にご心より感謝申し上げます。
(監事)

『大極殿』

正面約四十四米、側面約二十米、高さ地面より約二十七米
直径七十糎の朱色の柱四十四本・屋根瓦約九万七千枚を
使った平城宮最大の宮殿。天皇の即位式や外国使節との面
会など国の最も重要な儀式のために使われた。



近江高島を歩く

万葉の歌・鵜川四十八体石仏・白鬚神社・
近藤重蔵の墓をめぐる

脇谷 英勝

六月二十日(日)、総勢二十三名で近江高島駅に集合し、手書きの資料五枚、観光案内所で用意して頂いた資料五枚、計十枚を配布し、出発する。大溝港前の、万葉歌碑「大御船泊ててさもらふ高島の三尾の勝野の渚し思ほゆ」(七一・一一七)の解説をして「さが」に向かう。「さが」で昼食をとりながら、各自の自己紹介をして親睦を深める。次に大溝城跡の天守台跡に行き、この城と織田信澄について語り、おりから咲き残っていたオウチ(センダン)の花を見、海城としての鴻溝城を偲ぶ。

乙女ヶ池の水面を雨がたたきはじめたが、万葉歌碑「大船の香取の海に碇おろし如何なる人か物思はざらむ」(一一・二四三六)を解説し、太鼓橋を渡る。

日吉神社を通り、万葉歌碑「思いつつ来れど来かねて水尾が崎真長の浦をまたかえり見つ」(九一・一七三三)を味わいつつ、鵜川四十八体石仏に辿り着く。佐々木義賢と石仏について語り、傍らの高野素十句碑についても簡潔に説明する。降りしきる雨の中モリアオガエルの卵を見、前方に湖中の鳥居を見出しホッとする。白鬚神社では、与謝野寛・晶子夫妻の合作歌碑と紫式部歌碑を中心に話す。

白鬚神社前からバスに乗り、高島駅へ。少し休憩して円光禅寺を訪れ、住職のお話を聞き、分部侯歴代廟所に詣でる。そして瑞雪院の近藤重蔵詩碑を解説し、墓所に詣でる。子息富蔵の殺傷事件に連座し、大溝藩に流謫、最晩年の三年を高島の地に過ごし、没した。

最後に、わたしの大好きな旅の歌、高市黒人の
「何処にかわれは宿らむ」

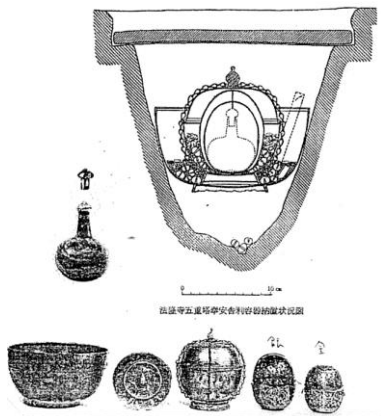
高島の勝野の原にこの日暮れなば」
(六・二一五防府にて 副理事長)



法隆寺五重塔心礎孔奉安の仏舍利荘厳 河田 貞

聖徳太子創建の法隆寺（斑鳩寺）若草伽藍は、天智九（六七〇）年に焼失、金堂にはじまる再建工事は、五重塔初層の塑像群が完成した和銅四（七一）年頃に竣工再建を果したとされる、現在の法隆寺西院伽藍である。その五重塔の心礎石には、舍利孔が穿たれ、中には仏舍利を奉籠した四重の容器をはじめ荘厳のための品々が、往時のままに厳然として伝えられている。大正十五年の防火水道工事の際に存在が確認された一群の舍利具は、塔改修中の昭和二十四年に行われた学術調査後、信仰の根幹をなすものとして旧態に復し、もはや何人も目にすることは不可能であるが、調査の成果をまとめた『法隆寺五重塔秘宝の調査』によれば、舍利具は仏舍利を籠めた瑠璃（ガラス）瓶を中核容器とし、卵形に象った金・銀二重の唐草文透彫容器でこれを被覆、さらに響銅（サハリ）製の有蓋鉢に納めて鎖で厳封していた。この有蓋鉢は響銅の大鉢の中に納置されて完結することになるが、有蓋鉢と大鉢の中には七宝荘厳に適う珠玉の類や仏前献香を意図した香木片が籠められ内蔵した容器の動きを封じる役をなしているのが注目される。また有蓋鉢の傍らには唐代の海獣葡萄鏡が立てかけられていた。四重容器はインドの古制を踏襲するものであり、釈尊の遺骸が金・銀・銅・鉄の四重棺に納められたとする経典の説に準拠しているであろう。

しかしもともと特徴的なのは三国時代の朝鮮半島、とりわけ百済の影響を顕著に示す有蓋鉢である。七世紀後半に比定されるわが国での塔心礎奉安舍利具の遺例は六件を数えるが、法隆寺の場合を含め半数の三件は有蓋鉢を外容器としたものであり、そのことは七世紀中葉頃の法隆寺玉虫厨子に描かれた舍利供養図中の蓮



台舍利容器や『上宮聖徳法王帝説』裏書に記された大和山田寺塔心礎納置舍利具によっても裏づけられ、七世紀を通じてこの種の外容器が舍利具の主流をなしていたことを示唆している。

百済との交流関係が深かった蘇我馬子が発願、伽藍を備えた最初の本格的な仏寺として造立された法興寺（飛鳥寺）の場合も、百済の工人が参画、百済請来の仏舍利を心礎舍利孔に奉安して塔が起立されたことを勘案すれば、おそらく有蓋鉢が外容器とされた可能性が高い。制作年がほぼ確かめられる同形の有蓋鉢は、五二九年に夫婦合葬陵として築営された武寧王陵（韓国・公州）の王妃棺に納置されていた銅托銀蓋があり先例となるが、死者への供物器であったものが、仏教との関わりから舍利容器に転用されたものである。因みに武寧王は日本に仏教を伝えた聖明王の父君である。



天智九年の罹災後再興された現在の法隆寺（西院伽藍）には、金堂の天蓋でも知られるように新羅仏教の影響が色濃く反映されている。にも拘らず五重塔の舍利荘厳具に百済様式の典型ともいえるべき有蓋鉢が百済滅亡後であったにも拘らずなぜ用いられたのであろうか。それは再興法隆寺に、聖徳太子による仏教信仰の根幹をなしていた創建法隆寺（斑鳩寺）若草伽藍塔蔵置の仏舍利が継承され、舍利荘厳においても容器の一部にその伝統を踏襲しようという意図が働いたからにほかならない。（理事長）

（檜の会公開講座平成二十二・二・二〇エルイン京都にて）

平成二十二年度 執行役員体制

理事長 河田 貞 副理事長 脇谷英勝・藤田一郎
 専務理事 近藤 正明 常務理事 森口亮介・荒木 勤
 理事 田村 類・小暮幹雄・田中重太郎・中田 節
 小山 守・長谷川 裕子
 監事 西川 四郎・遠藤 歌子
 名譽顧問 安田紀美子(花柳双喜美)
 参与 江里康則・西堀 茂平
 運営委員 柴田美智子・中井恵子
 顧問 枘岡 義明

お知らせ

●檜の会催事

◇歴史文化セミナー

―東近江路を訪ねる―
 期 日 八月二十八日(土)
 集 合 場 所 JR琵琶湖線能登川駅 午前十時
 会 場 西堀榮三郎記念探検の殿堂
 (南極マイナス二十五度体感・五十人の日本探検家)
 東近江の秘境木地師の里(君が畑・蛭谷)
 観峯館(中国書道文化博物館)
 参加費 六〇〇〇円
 申込〆切 八月六日(金)

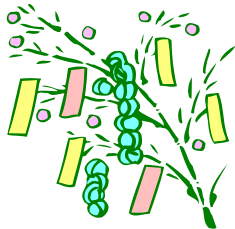
◇「伝統文化の精華」展

期 日 九月二五日(土)・二六日(日) 午前十時〜午後四時
 場 所 ひと・まち交流館京都(河原町五条下る東側)
 TEL 〇七五―三五四―八七二一

●会員情報

◇祇園八坂神社の「七夕舞踊奉花の会」

期 日 八月七日(土) 午後二時〜四時
 出 演 八坂神社舞殿
 友情出演 花柳双喜美他東峯社中
 野中久美子(能管)



●関連情報

◇能へのいざない

この春知人で正会員の紹介により能楽師「林宗一郎」さんにお出合
 いし、本人の概要を説明し、主旨をご理解頂き、今年度新規芸能鑑
 賞に「能」を加えることができました。
 「林家」は、観世流宗家が徳川將軍に仕えるために江戸へ移った後、
 京都において素謡の指南にあたった京観世五軒家のうち唯一存続して
 いる家。とりわけご本人は、十三世・林喜右衛門長男として昭和五十
 四年生まれで若く、これからの「能」芸術のあり方、次世代に向けて
 の発信に努力されています。

※鑑賞会は、後日ご案内しますが「林定期能」は次のとおりです。
 (常務理事 森口亮介)

平成二十二年林定期能 於 京都観世会館(右京・岡崎円勝寺)

第四回 夜能 八月二十日(金) 午後五時開演
 能 半部・狂言 醉薑・能 融
 第五回 十月二日(土) 正午開演
 能 野宮・女郎花
 第六回 納会 十二月十二日(日) 正午開演
 能 三井寺・鶴 他に狂言仕舞数番
 入場料 (全席自由)
 前売 一般四〇〇〇円 学生二〇〇〇円
 当日 一般四五〇〇円 学生二五〇〇円



半部



融

1 訃報

飾り結びの大家で、「伝統文化の精華」展に特別出品など本会の活動にご
 協力くださった川島美園先生が五月二十六日逝去されました。
 ご生前のご遺徳を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

※ご意見ご提案お問合せは事務局にお寄せ下さい。

連絡電話/FAXは、当分の間、〇七五―八六一―七八〇(荒木まで)。
 又は、〇七五―九二一―六五九七(森口)まで。